

1

問1 人工衛星の質量を m' 、地球の質量を M 、万有引力定数を G とすると、運動方程式より

$$m' \frac{v_0^2}{R} = G \frac{Mm'}{R^2}$$

また、地表での重力加速度の大きさが g であるから

$$g = G \frac{M}{R^2}$$

2式より

$$v_0 = \sqrt{gR}$$

$$T_0 = \frac{2\pi R}{v_0} = 2\pi \sqrt{\frac{R}{g}}$$

問2 力学的エネルギー保存則より

$$\frac{1}{2} m' v'^2 - G \frac{Mm'}{R} = 0 \quad \therefore v' = \sqrt{2gR} \quad (\because GM = gR^2)$$

問3 運動量保存則より

$$mv_P = (m + \Delta m) v_0 \quad \therefore v_P = \frac{m + \Delta m}{m} v_0$$

問4 前問の結果を用いて

$$\begin{aligned} \Delta E &= \frac{1}{2} m v_P^2 - \frac{1}{2} (m + \Delta m) v_0^2 \\ &= \frac{(m + \Delta m) \Delta m}{2m} v_0^2 \end{aligned}$$

問5 面積速度一定、および力学的エネルギー保存則より

$$\begin{cases} Rv_P = r_A v_A \\ \frac{1}{2} m v_P^2 - G \frac{Mm}{R} = \frac{1}{2} m v_A^2 - G \frac{Mm}{r_A} \end{cases}$$

2式より

$$v_P = \sqrt{2gR} \times \sqrt{\frac{r_A}{r_A + R}}, \quad v_A = \sqrt{2gR} \times \frac{R}{\sqrt{r_A(r_A + R)}}$$

問6 ケプラーの第3法則より

$$\frac{T}{T_0} = \left(\frac{R + r_A}{2R} \right)^{\frac{3}{2}}$$

問7 P点での力学的エネルギーを考えて

$$E = \frac{1}{2}mv_P^2 - G\frac{Mm}{R}$$

$$= mgR\frac{r_A}{r_A + R} - mgR = -\frac{mgR^2}{r_A + R}$$

問8 人工衛星が点Cから点Bまで移動する間に、地球中心と人工衛星を結ぶ線分が通過する面積は、題意により

$$\pi ab \times \frac{1}{1+2} = \frac{1}{3}\pi ab$$

△OBCの面積に着目して

$$\frac{1}{2} \cdot 2b \cdot \sqrt{a^2 - b^2} = \frac{1}{2}\pi ab - \frac{1}{3}\pi ab$$

$$\therefore a^2 - b^2 = \frac{\pi^2}{36}a^2$$

$$\therefore b = \frac{\sqrt{36 - \pi^2}}{6}a$$

2

問1(1) 加速度の大きさは $a_1 = \frac{qE}{m}$ なので, 求める速さを v_1 とすると等加速度運動の公式より,

$$v_1^2 - 0^2 = 2 \cdot \frac{qE}{m} \cdot d \quad \therefore v_1 = \sqrt{\frac{2qEd}{m}}$$

(2) 荷電粒子は領域 I に入射した直後, $+x$ 方向に力を受けて円運動を始める。この円運動の半径を R とすると, 円運動の運動方程式より,

$$\begin{aligned} \frac{mv_1^2}{R} &= qv_1 B_0 \\ \therefore R &= \frac{mv_1}{qB_0} \\ &= \frac{1}{B_0} \sqrt{\frac{2mEd}{q}} \end{aligned}$$

求める座標は

$$\begin{aligned} (x, y) &= (2R, 0) \\ &= \left(\frac{2}{B_0} \sqrt{\frac{2mEd}{q}}, 0 \right) \end{aligned}$$

(3) 原点 O に達するまでの時間を t_1 とすると等加速度運動の公式より,

$$\begin{aligned} t_1 &= \frac{v_1 - 0}{a_1} \\ &= \sqrt{\frac{2md}{qE}} \end{aligned}$$

原点 O から点 Q_2 までの時間 t_2 は円運動の半周期なので

$$\begin{aligned} t_2 &= \frac{\pi R}{v_1} \\ &= \frac{\pi m}{qB_0} \end{aligned}$$

よって求める時間は

$$t_1 + t_2 = \sqrt{\frac{2md}{qE}} + \frac{\pi m}{qB_0}$$

(4) 磁場は仕事をしないので, 電場による仕事だけを考えればよい。仕事は力と変位の積で与えられるので,

$$qE \cdot \{0 - (-d)\} = qEd$$

(5) 問2と同様に, α 粒子 (電荷 $+2e$) に関して,

$$r_\alpha = \frac{m_\alpha v_\alpha}{2eB_0}$$

β 粒子 (電荷 $-e$) に関して,

$$r_\beta = \frac{m_\beta v_\beta}{eB_0}$$

比を取って整理して、

$$\frac{m_\alpha}{m_\beta} = \frac{2r_\alpha v_\beta}{\underbrace{r_\beta v_\alpha}}$$

(6) 軌跡は右図の円弧のようになる。この円運動の半径 R' は、

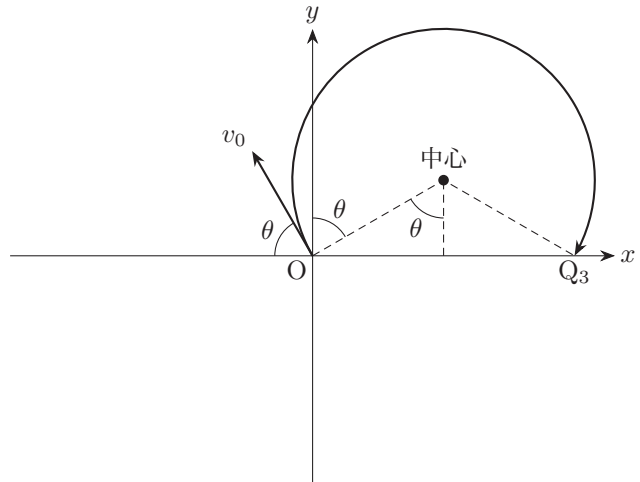
$$R' = \frac{mv_0}{qB_0}$$

なので、その中心の座標は

$$\begin{aligned} (x, y) &= (R' \sin \theta, R' \cos \theta) \\ &= \left(\frac{mv_0 \sin \theta}{qB_0}, \frac{mv_0 \cos \theta}{qB_0} \right) \end{aligned}$$

Q_3 の座標は

$$\begin{aligned} (x, y) &= (2R' \sin \theta, 0) \\ &= \left(\frac{2mv_0 \sin \theta}{qB_0}, 0 \right) \end{aligned}$$



(7) 中心角 $2\pi - 2\theta$ の円弧を運動する時間を求めればよいので、

$$\frac{(2\pi - 2\theta) R'}{v_0} = \frac{2(\pi - \theta) m}{qB_0}$$

問 2 (1) 領域 1: 裏から表, 領域 2: 表から裏

(2) 領域 1, 2 では運動エネルギーは変化せず、領域 3 では運動した距離に比例して運動エネルギーは増加する。よって右図のようになる。

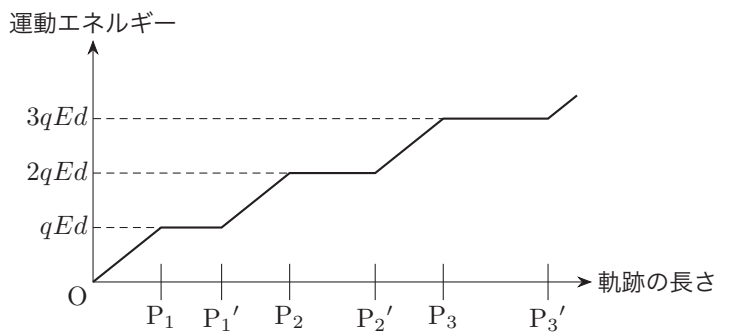
(3) 電場による仕事は $qE \cdot nd = nqEd$ であるから、 n 回目に領域 3 を通過した直後の速さを v_n とすると、

$$\frac{1}{2}mv_n^2 = nqEd$$

$$\therefore v_n = \sqrt{\frac{2nqEd}{m}}$$

したがって円運動の半径は

$$\begin{aligned} r_n &= \frac{mv_n}{qB_0} \\ &= \frac{1}{B_0} \sqrt{\frac{2nmEd}{q}} \end{aligned}$$



(4) 円運動の半周期を求めればよい。

$$\begin{aligned} t_n &= \frac{\pi r_n}{v_n} \\ &= \frac{\pi m}{\underbrace{qB_0}} \end{aligned}$$

(5) 速さは v_{n+N} であるから、

$$r_n = \frac{mv_{n+N}}{qB_{n,N}}$$

$r_n = \frac{mv_n}{qB_0}$ だったので比を取って整理すれば、

$$\begin{aligned} B_{n,N} &= \frac{v_{n+N}}{v_n} B_0 \\ &= \sqrt{\frac{n+N}{n}} \underbrace{B_0} \end{aligned}$$

(6) $t_{n,N}$ は、

$$\begin{aligned} t_{n,N} &= \frac{\pi r_n}{v_{n+N}} \\ &= \frac{v_n}{v_{n+N}} \times \frac{\pi r_n}{v_n} \\ &= \sqrt{\frac{n}{n+N}} \times \underbrace{t_n} \end{aligned}$$